



# 未来ファンド おうみ おうみ

おたがいさまがつながる社会をめざす  
にゅーす

# News

Mirai Fund Ohmi News Letter

2011.12 創刊号



つながる活動

Photo



余呉オペラ実行委員会公演

## 「菊石姫」

未来ファンドおうみ「びわこ市民活動応援基金」助成採択団体、余呉オペラ実行委員会では、平成11年に第1回余呉創作オペラ「余呉の天人」を皮切りに、余呉に伝わる伝説、民話を題材に創作オペラを公演しています。地元住民と子ども達、プロの声楽家、音楽家などと一緒に作り上げ、第4回目の公演は余呉湖の底に棲む盲目の龍女伝説「菊石姫」でした。2011年5月29日に余呉文化ホールで開催され、舞台と客席が一体となった素晴らしい公演でした。これからの公演も楽しみです。

## Data

●団体名：余呉オペラ実行委員会

●連絡先：湯本佳代子

滋賀県長浜市余呉町下丹生 811

TEL：0749-86-3613

携帯：090-2380-7667

# 話題

## 「寄付は人と地域の絆を結ぶ」

### つながる社会

Tsunagaru Syakai

先日、放映されていた「アイシテル〜絆〜」というTVドラマを見ていました。このドラマ、殺人を犯してしまった兄のために、苦勞する弟が出てきます。人生の中で、何かうまくいかけると、誰かが、彼の兄が殺人者であることを聞きつけ、いつも人が離れて行ってしまふ弟。

ぐらいは、私にだってできるぞ」

その言葉に、弟は立ちつくし、画廊に残る決意、そして人生を前向きに生きる決意をします。

時に、人が寄り添ってくれるって、本当に意味があると思います。

私たちの社会において、「寄付」って何なんでしょうか？ 似たような言葉に、「喜捨」がありますが、「寄付」は、「喜捨」とは違うと思っています。字の通り、「寄って、付く」のだから、寄付とは、「寄り添う」となると感じます。

これまで、寄付って、「喜んで捨てる」という行為ととらえられてきたところがあります。だから、正直、達成感も、楽しさも、想いも、夢も、寄付を通じてもたらされるという感覚が育ってこなかった。



幸せと共感の循環

傷ついて、傷ついて、ふらりと立ち寄った芸術工房でも、いったんは温かく受け入れられるのですが、他の生徒さんたちからやはり冷たい目で見られる。

そこで、立ち去ろうとする弟に、工房の親父さんがいうのです。「きみの、これまでの苦勞を100%理解してやれるとは思わない。でも、きみに寄り添うこと



### ファンドレイジングの小箱

A Small Box of FUNDRAISING

寄付を集めるためのひと工夫、寄付者の共感を呼ぶ事業、想いをつなぐ取り組みをご紹介します。

### 寺子屋「カ石」再興プロジェクト

## 人のあたたかみを感じ、一人じゃないと励まされ、絆を深め

「ひこね街の駅・寺子屋カ石」は、250年の歴史を持つ貴重な建物。人と情報の行き交う街の駅として学びをテーマに活動を展開し、多くの人に親しまれてきました。

その寺子屋カ石は2011年1月2日、火災発生により半焼。1月8日、寺子屋カ石に関わる「LLPひこね街の駅」「NPO法人彦根景観フォーラム」「花しょうぶ通り商店街振興組合」などが集まり、再興実行委員会を組織し、労力と募金の呼びかけを始めました。1月から3月、のべ18日に達する作業では300名以上のボランティアが全国から集まり、焼けた柱の処理、瓦礫の除去作業などを行いました。募金は半年間で約450万円が集まり、修復された建物壁面に寄付者の芳名板を掲げ、仮オープンして第一期事業を終えました。

どうして、こんなに多くの思いを集められたのか、LLPひこね街の駅の小杉共弘さんは、「作業や日々の活動、会議などをメルマガで発信し、地元の方や全国のファンの方々との絆を共有してきたからだと思います。再興しようという多くの声に支えられています。」と語る。メンバーリストにはこの商店街に関心を寄せる約250名が登録。普段からイベントや活動を発信し、多くの人との志や情報の共有に力を注いで来ました。CDの売り上げ全額が「まちづくり結募金」に寄付されるテーマソング「前へ前へ」は再興の象徴になっています。

火災は悲しい出来事でしたが、普段からこの街に思いを寄せる地元や全国の人など、たくさんの方々の支えと絆をさらに強く、太くする機会にされたと感じました。



▲瓦リレーが繋がります。



▲お話を聞きした小杉さん

### ひこね街の駅「戦国丸」

〒522-0033  
滋賀県彦根市河原3-4-36  
TEL & FAX : 0749-27-5058  
E-mail : shop@machinoeki.info

# 鵜尾 雅隆さん

日本ファンドレイジング協会常務理事・事務局長



## <鵜尾雅隆さん●プロフィール>

国際協力機構、米国Community Sharesを経て、ファンドレイジング戦略コンサルティング会社(株)ファンドレックス創業。日本ファンドレイジング協会の創設に携わる。米国ケースウエスタンリザーブ大学非営利組織経営管理学修士、インディアナ大学The Fundraising School修了。寄付10兆円時代の実現に向けて、NPO・公益法人のコンサルティング、研修、講演などに全国各地を奔走中。著書に「ファンドレイジングが社会を変える」など。



被災者のこと、障害をもった子どもたち、地域のお年寄り。100%その苦勞を理解することは、難しいことなのかもしれない。彼らの人生そのものを抱えることは、出来ないかもしれない。でも、寄り添うことはできる。応援する気持ちを伝えることはできる。それが寄付なんだと思います。

今、地域の絆を取り戻すことの重要性がいろいろな場面で語られています。必ずしも地縁・血縁だけで地域の課題を解決することが難しく、行政任せにもできなくなりました。そういう中で、日本社会は、地域を構成する様々な人たちが、力を合わせて社会の課題を解決し、助け合う環境を生みださざるを得なくなってきました。そういう意味において、日本は、もうひとつ次の段階に進化せざるを得ない状況になって

いるともいえます。

では、地域の絆を取り戻すには、何が必要なのでしょう。私は、フィランソピーの両輪と言われる「ボランティア」と「寄付」の中で、寄付の持つ役割がこれまでに高まってきていると感じています。

ボランティアは、「自らが他者のためにすること」。寄付は、「他者を信じて、託すこと」なんだと思います。今、地域社会のために、アイデアを持ち、エネルギーをもって「なんとか地域社会を良くしよう」と一生懸命頑張る人たちが出てきています。彼らを応援すること、信じて、夢を託すこと、そして、そういうチャレンジャーたちが、応援しあう地域社会をつくること。これが、地域社会の絆をとり戻す、大切な第一歩なのだと思います。



## 未来ファンドおうみ応援団

Cheer Group of MIRAI FUND

未来ファンドおうみへご寄付いただいた企業、個人の方々の想いをご紹介します。

## オムロン株式会社草津事業所

## エコボラン活動を広げて 地域社会で活躍できる人づくり

エコボラン活動とは、エコ活動とボランティア活動を併せた造語です。オムロン株式会社草津事業所では、社員のエコボラン活動で集まったポイントに会社で金額を決め、未来ファンドおうみ「おうみNPO活動基金」へ寄付いただきました。この活動について、総務部 内堀隆夫さんにお話を聞きました。

世界中のオムロン事業所で毎年5月11日の創業の日、社員が社会貢献活動に取り組みます。草津事業所が今年取り組んだ活動は手話や点字の学習、雑巾や座布団を作って施設などへ寄贈、介助犬・聴導犬・盲導犬についての体験、老人ホームなどでの清掃など実に14種類。森林保全や湖岸清掃など年間を通した活動もあります。

エコボラン活動は社内での活動を家庭や地域に広げ、地域で活躍できる人づくりを目的に2008年に始まりました。例えば「資源ゴミを分別処理した」など家庭でのエコ活動や「スポーツ少年団で指導した」など地域でのボランティア活動にポイントを付けます。社員が地域でのボランティア活動を話すきっかけになり、会話が弾み、活動も広がっています。ポイント競争など、楽しんで取り組める工夫をしています。エコボラン活動は世界中の事業所で取り組まれており、地域の市民活動などへ寄付しています。

最後に、寄付いただいた未来ファンドおうみへのご感想をお聞きました。「未来ファンドおうみ助成成果発表会に参加し、



▲創業記念日の琵琶湖岸清掃

市民活動団体が誇りを持って活動していることを知ることが出来ました。これまで出会う機会が少なかったNPO活動に対して垣根が取り払われたと感じています。」

今後、NPO活動と連携した社員のボランティア活動につながる機会にさせていただければと思います。

## オムロン株式会社草津事業所

滋賀県草津市西草津2丁目2-1

URL : <http://www.omron.co.jp/>

## みんなのアート KOHOKU アール・ブリュット展

+nico(プラスニコ)

+nico(プラスニコ)は、湖北を中心にデザインとアートで福祉を元気にしたいと活動しています。未来ファンドおうみ「びわこ市民活動応援基金」助成を受け、しょうがいのある人もない人も一緒にアートを楽しみ、アートを通してしょうがい児者と健常児者が交流・親睦を深める場を企画しました。アール・ブリュットとは、フランス語で「生の芸術」という意味で、正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出す芸術です。誰でも参加できるワークショップもあります。市民福祉フォーラム第2回長浜市社会福祉大会も同時開催。



- ◆日時：12月18日(日)9:00～15:00
- ◆会場：浅井文化ホール(滋賀県長浜市内保町2500)
- 入場無料・ワークショップ(材料費200円)
- ワークショップの内容・時間は、お問い合わせください。ワークショップの事前申し込みは不要。参加希望の方は当日、会場までお越しください。
- ◆連絡先：090-7953-6980 大橋

## 車いすの方の旅行や 外出を支援します！

NPO 法人どこでも介護

どこでも介護は、車いすの方の旅行介護・外出支援を行っている団体です。

未来ファンドおうみ「おうみNPO活動基金」助成を受けて長浜地域のバリアフリー調査を行いました。10月11日は、「車いすで巡る大河ドラマ「江」の旅」と題して、車いすの方とご家族と一緒に浅井三姉妹博覧会と長浜黒壁スクエア観光をしました。出かけたけれど、身の回りのお世話が必要でなかなか出かけられない方、どうぞお気軽にご連絡ください。通院、お買い物・外食など身近なお出かけからお泊り旅行まで、ご相談に応じます。



県内のバリアフリー情報の詳細はどこでも介護のホームページまで。

- ◆NPO法人どこでも介護
- ◆連絡先：大津市瀬田5丁目12-12
- TEL.090-3675-1088
- URL：<http://www.dokodemo-kaigo.com/>
- または、どこでも介護…で検索してもOK!

# Information

# インフォメーション

## 未来ファンドおうみ助成事業 2012 募集が始まります！

市民の想いを込めた寄付を市民活動へつなぐ未来ファンドおうみの助成事業の募集が始まります。個人や企業などからお寄せいただいた寄付をみなさんの市民活動へつなげてください。

◇募集期間：2011年12月1日(木)～2012年1月21日(土)

◇助成期間：2012年4月～2013年3月

◇募集内容：①おうみNPO活動基金助成・おうみNPO活動基金は、滋賀県と企業、団体等からの寄付により2002年に設立し、市民活動団体の組織運営の強化を目的に助成を行います。②びわこ市民活動応援基金・関西

アーバン銀行(旧びわこ銀行)様と社員のみなさまからの寄付により設立し、広く市民が参加するボランティアや市民活動への支援を目的に助成を行います。③びわ湖の日基金・びわ湖の日30周年を記念して開設し、琵琶湖につながる河川、森林、生活の環境保全活動へ助成を行います。④日本の元気なきずなプロジェクト基金「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞・市民による自主的な草の根のまちづくりを地域の人々とともに継続する活動を表彰します。

詳細については、当センターホームページをご覧ください。

## 未来ファンドおうみフォーラム ～一人ひとりができること、あなたの寄付からはじまる絆～

「一人ひとりができること」を身近なところから、意識して行動することで社会がかわることをアルピニストでヒマラヤや富士山の清掃登山を行う野口健さんにお話をお聞かせします。

一人ひとりの行動が社会を変えます。寄付も社会を変える一つの行動です。私たちは、寄付をとおしてどんな社会をつくるのでしょうか。

◇日時：2012年1月28日(土)

13:30～17:00

◇場所：県民交流センター  
ピアザホール(ピアザ淡海)

### ◇プログラム

- ・基調講演：「一人ひとりができること」  
野口 健さん(アルピニスト)
- ・報告：＜寄付が伝えるメッセージ＞
- ・市民活動団体紹介



未来ファンドおうみへの寄付・助成事業についてのご相談は淡海ネットワークセンターへ



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

### (公財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPO をサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2階 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■<http://www.ohmi-net.com> ■E-mail:office@ohmi-net.com ■開館時間/9:00～17:00 ■休館日/月曜日・祝日